

# 財務戦略で 理想の稼ぎと ゆとりを生み出す



**羽場 権二**  
HABA Kenji

株式会社百一姓  
代表取締役  
(長野県伊那市)

『数字の力を農家の力に』を理念とし、百人百様の農家の一生を支援するという想いを社名に込めた会社、百一姓<sup>ひゃくいっせい</sup>を立ち上げ、5年が経ちました。

創業当初のサービスは、経営改善のために、生産性の分析や、圃場別の収量分析、等級ごとの収益性分析などをおこなうことでした。

しかしながら、日々刻々と変わる生産量や販売量の中で、訪問の間隔が空いてしまうと、タイムリーな経営の意思決定を支援することはできないと思い至りました。どのような生産場面や販売場面であっても、数字を軸にした明確な意思決定を経営者自身がくだす。その力を養う支援こそ大切だと感じ『営農数値プロフェッショナル講座』を開講しました。

## はば けんじ

1986年長野県生まれ。会計事務所勤務、農業生産法人勤務の後、農家専門の財務戦略支援会社「百一姓」を創業。趣味は、キノコの識別。

**講**座では大きく三つの技術を身に付けてもらいます。

一つ目は、売り上げを追わずに、粗利と固定費のバランスで経営を判断する技術です。同じ売上高でも、得られる利益は異なるケースが

ことを目標としています。それには、そもそも何故農業経営をしているのか言語化してもらい確信することが重要です。その土台があってこそ大胆な決断が可能になります。

これら三つの技術を習得し実践



©新海 良夫

あるため、適正な原価計算を元に作物別や取引先別の粗利を把握することが大切です。

二つ目は、ボトルネックを特定して、経営改善に生かす技術です。ボトルネックの解消以外は粗利を生み出さないという考え方の元、農園の営農フローを描いてボトルネックを特定します。そして無駄な仕事をやめたり、協力を仰いだりすることでボトルネックを解消していきます。

三つ目は、経営理念を軸にした経営を実践する技術です。講座では理想の稼ぎとゆとりを手にする

した農業経営者のなかに、ゆとりを失う原因になっていた主要な作物をやめるという決断をした方がいました。取引先との契約栽培を切り開いてくれた大事な品目でしたが、社員のために毎週決まった曜日を休みにしてあげたいという想いを貫く為に決断。その結果、労働時間は約20%削減されました。

農業経営者の皆さまには、栽培力、販売力に、財務戦略の力を足して、理想の稼ぎとゆとり、そして夢を実現していただきたいと思いません。**F**



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。